

四国植物防疫研究協議会25年の歩み

1. 生い立ちと歩み

本会の設立については、昭和28年10月、香川県農業試験場で四国地域秋冬作に関する試験設計会議が行われた際、香川県の福西氏、愛媛県の河野氏などから会の設立の話がもち上がったようである。当初は病害虫研究会のようなものも考えられたらしく、その規約案も残っているが、もっと行政なども含めた巾の広いものとするということで、現在の名前を採用したようである。約1年間にわたって、いろいろ協議された結果、翌29年8月に設立趣意書が配布され、同年9月8～9日に秋期ブロック会議で成立させたいむねの文書が、木谷氏から各県の設立世話人宛に発送された。そして、同年9月17日徳島で行われた秋冬作会議の際に設立された。

しかし、実際に協議会としての事業活動が開始されたのは昭和30年6月、松山市城南荘で病害虫防除奨励官を対象とした協議会からのようである。以後、昭和55年松山市で開催された協議会までに25回の大会が開催され、それぞれの時期に問題となった事項について、研究発表ならびに協議が行われた。

当初配布された設立趣旨と規約は参考資料1,2に示した。また、開催場所・月日、議題等も以下に示した。なお、項目ごとに資料の有無も記したので参考にされたい。

(資料 - 1) : 四国植物防疫研究協議会の設立と趣旨

昭和28年10月四国ブロック秋冬作に関する試験設計打合せ会が香川県農業試験場に於て開かれました時関係者から次の様な意向が提出されました。それは「米麦を始めとして、果樹、蔬菜などの各作物には年々病害虫による被害が多く、更に又新しい病害虫の発生などにより農産物の生産は大きな障害を受けている。

併し最近の病害虫に関する諸研究の著しい進歩と、卓効ある新しい農薬の導入、効率の高い防除機具、行政面における組織的且有機的な諸施策等により防除の成果は著しく高められ病害虫防除の方法に大きな変革をもたらしつつあり又防除の地域性と云うことも非常に重要になって来ている。このように研究が進み新しい農薬が続出し、行政的施策が高度化し防除の地域性が重要視されてくると各々その分野に携わるものは益々有機的な連絡を保ちながら研鑽を深くして事に当らなければ充分な成果を発揮出来ない場合が多くなって来る。このような現状から考えて地域的にも又色々の面で条件の相似た四国地域及びこれと関係の深い病害虫の研究や防除の分野に携わるものが常に色々の面から知識を交換し啓蒙を行い相互に連絡強調を計りながら各々その職務に邁進することが望しい、それには適当な一つの連絡会をつくりたい」と云うようなことで全員これに賛同し準備を進めることになりました。併し関係者が一同に会する機会に恵まれず準備は遅々として進まなかったのですが意を同じうする者が一同に会する機会を待つことは徒らに時日を遅延させるばかりなので、昭和29年9月徳島県農業試験場に於て四国ブロック秋冬作試験設計打合せ会が開かれるのを機に少数ながら各県における発起人と其の他出席者のうち趣旨に賛同された方々で準備会を開き引続き設立総会を開催して規約其の他の事項を決定し本会の発足をみるに至りました。

本会は先に述べたような意図と規約に示すような要領で四国における病害虫防除に大なる成果を希み引いては農業の発展に寄与せんことを切望しつつ活動を開始しました。願わくば関係者各位の御協力を賜われれば幸いと存じます。

四国植物防疫研究協議会

(資料 - 2) : 四国植物防疫研究協議会規約

- 第1条 本会は四国植物防疫研究協議会 という
- 第2条 本会の事務所を農林省四国農業試験場内におく
- 第3条 本会は四国地域の植物防疫に関係のあるもので、本会の趣旨に賛同し加入したものを会員としこれによって構成する
- 第4条 会員は通常会員及び特別会員とする
- 第5条 本会は会員相互の病害虫に関する諸分野の知識交換及び防除方法の連絡協調を図り農業の向上発展に寄与するを目的とする
- 第6条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う
1. 試験研究の発表、討論会及び講演会の開催
 2. 防除方針の研究協議
 3. 試験研究成績並びに各種関係資料の印刷配布
 4. その他目的達成のために必要な事項
- 第7条 総会は毎年一回開く。但し必要に応じて臨時に総会を開くことができる
- 第8条 総会の議決は出席者の過半数の同意による。但し規約の改正については出席者の3分の2以上の同意を得なければならない
- 第9条 本会の運営その他必要な事項については総会において定める
- 第10条 本会に役員として会長1名 副会長2名 会計監事2名及び常任委員1名 委員若干名をおく
会長は四国農業試験場長を推戴する
副会長以下の役員は毎年総会において改選する。但し再選を妨げない。その選出方法は総会においてこれを決定する
- 第11条 会長は本会を代表し業務を統轄する。副会長は会長を補佐すると共に会長事故あるときはこれを代理する
- 第12条 会計監事は会計を監査する
- 第13条 委員は会長の指示に従い本会の事務を処理する
- 第14条 本会の経費は会員並びに寄附金によって賄うものとする
1. 通常会員年額 200円
 2. 特別会員年額 2,000円
- 第15条 本会の収支予算及び収支決算は総会の承認を得なければならない
- 第16条 本会の会計年度は毎年四月にはじまり翌年三月末日に終る

(資料 - 3) : 協議会の開催場所、開催月日、議題等

1. 昭和29年9月17日 徳島県 四国地域秋冬作打合せ会議の際設立
昭和30年1月27日 高松市 さぬき荘 四国植防委員会開催
議題 ①昭和30年度病害虫防除方針について
②補助奨励事業の事務打合せ
③事務打合せ(会員募集範囲, 総会, 機関紙四国植防便り)
昭和30年6月29日 松山市持田町 城南荘
四国における夏作病害虫防除方針について(対象病害虫防除奨励官)
2. 昭和30年9月12日 善通寺市吉田町 わたや別館
総会開催

- ①昭和29年度会計報告及び30年度予算
 - ②事業報告 ③規約一部変更 ④役員改選
 - ⑤四国地域における研究及び防除方針の検討について
 - ⑥その他（以上四国植防便り第7号掲載）
3. 昭和31年3月4日 松山市二番町 友愛会館
- ①総会 ②防疫に関する研究協議 ③特別講演
 - ④研究発表
 - ②～④
 - 稲作病害の被害並びに薬害査定について
 - 燐剤及び塩素剤の魚毒対策について、ドリン剤の取扱いについての各県の方針
 - 螟虫並びに果樹、蔬菜に対するパラチオン剤の使用について
 - 病虫害防除指導方針の協調について
 - 2,3螟虫防除に伴う主要農薬の選定
 - 河野氏「愛媛県の南端、北宇和海岸地方のドブネズミの異常発生について」
4. 昭和32年3月14日 善通寺市 四国農業試験場
- ①総会
 - ②防疫に関する研究協議（四国植防便り10号掲載）
 - 水銀粉剤の含有成分量について
 - 最近農家はどのような農薬を要望しているのか
 - 共同又は集団防除の必要性と効果
 - 今年の試験成績から見て普及に移せる、又は有望な農薬について
 - エンドリン等の使用取扱いについて
- 昭和32年9月11～12日 四国農業試験場と高松周辺での現地視察
秋馬鈴薯に発生する「ジャガイモ蛾」の予防及び駆除対策に関する研究協議会開催について
5. 昭和33年3月15日 高知市 セントラルホテル
- ①総会 ②防疫に関する研究協議
- 昭和33年12月17日 四国農業試験場
研究協議会開催
- ①昭和33年度水稲病虫害発生の特異性（資料有り）
 - ②昭和33年度農薬効果の特異性（薬害関係を含む）
6. 昭和34年8月12日 高松市 さぬき会館
- ①総会
 - ②防疫に関する協議事項 （資料有り）
 - 水稲ウィルス病類の発生並びに防除状況に対する検討
 - 土壌線虫その他病虫害防除に対する問題点
 - 水稲の高温障害（主として根腐）とその対策について（徳島）
7. 昭和35年12月16日 高松市 さぬき会館
- ①総会
 - ②協議事項 （資料有り）
 - 35年度における水稲ウィルス病（特にシマハガレ病の発生ならびに防除状況と今後の対策）

- ニカメイチュウの発生概況と薬剤防除の効果
- 35年度における試験成績中特に防除上重要と考えられる事項
- その他

昭和37年 4月19日 四国農業試験場

稲縞葉枯病防除に関する打合せ会開催

8. 昭和38年11月21～22日 四国農業試験場

- ①総会
- ②協議事項 (資料有り)
 - 昭和38年度作物病虫害発生概況と今後の問題点(主として稲・麦, 果樹, 野菜)
 - 昭和38年度作物病虫害防除概況と今後の問題点(同上)
 - 昭和38年度における稲ウィルス病の発生ならびに防除概況と今後の対策
 - 果樹ハダニ防除の問題点
 - 各県提出議題
 - その他

9. 昭和39年11月25～26日 高知市 高知県庁前農協会館

- ①総会 ②研究発表
- ③協議事項 (資料有り)
 - 農業構造改善推進上障害となっている病虫害と防除の問題点
 - ア. 水稲栽培法(栽培型および栽培様式)と重要病虫害
 - イ. ハウス野菜栽培と重要病虫害
 - ウ. 果樹栽培と病虫害
 - エ. その他
 - 省力防除の現状と問題点
 - 昭和40年度防除方針の問題点
 - その他
- ④現地検討会

高知県におけるハウス野菜地帯において現状を見学し検討を行う。

10. 昭和40年11月16～17日 松山市東野町 愛媛県果樹試験場

- ①総会 ②研究発表
- ③協議事項 (資料有り)
 - 水稲安全多収技術としての病虫害防除推進方策
 - 昭和41年度における水稲病虫害防除推進上の問題点
 - かんきつ病虫害防除の問題点 大森尚典
 - 愛媛県果試あるいは松山市近辺のかんきつ園視察

11. 昭和41年11月24～25日 香川県農業試験場

- ①研究発表 ②総会
- ③協議
 - 昭和42年度病虫害防除対策推進上の問題点
 - ア. キュウリ緑斑モザイクの対策と研究強化について
 - イ. イネ穂枯れ対策と問題点
 - ウ. 防除薬剤に関する問題点 水銀剤, 有機燐剤の使用規制, 殺虫剤耐性などを含めて検討を要する問題点について

④ その他

- ア. 水銀剤の使用規制にともなう病害防除対策（四国四県）
- イ. トビイロウンカの防除薬剤をめぐる諸問題（香川）
- ウ. 混合剤による同時防除対策 病害虫に関する問題（香川）
- エ. そ菜病害虫の防除薬剤について

12. 昭和42年11月9～10日 徳島県農業試験場

- ① 研究発表 ② 総会（会費値上げ，規約改正など）
- ③ 協議

○ 昭和43年度病害虫防除方針設定上の問題点と対策

- ア. 防除薬剤の選定および使用方法などに関する問題点と改善の方向
- イ. 防除組織の現状と改善の方向
- ウ. 防除機具類の性能と改善の方向

13. 昭和43年11月15～16日 善通寺市 四国農業試験場

- ① 総会
- ② 協議

○ 昭和44年度病害虫防除方針設定上の問題点と対策 （資料有り）

- 各県提出議題
- シンポジウム

混合剤の効力を評価するための簡単な統計的方法について—とくに相乗効果検出のための要因分析 （資料有り） 河野達郎

14. 昭和44年11月19～20日 高知市帯屋町 高知県文教会館

- ① 総会
- ② 協議

- 野菜病害虫の発生概況と防除上の問題点 （資料有り）
- 防除機具の現状と今後の問題点 （資料有り）
- 各県提出議題

③ 研究発表

15. 昭和45年11月19～20日 松山市 愛媛県PTA会館

- ① 総会（通常会員会費値上げ）
- ② 協議 （資料有り）

- ツマグロヨコバイに対するカーバメイト剤の効力低下の実態と問題点
清家安長
- 農薬の残留問題とその対策
桐谷圭治
- 各県提出議題

16. 昭和46年11月17日 坂出市府中町 香川県農試府中分場

- ① 総会
- ② 協議

- 果樹病害虫防除の問題点 （一部資料有り）
- ア. カンキツ病害虫の薬剤防除の問題点 賀川 実・大和洗国
- イ. スプリンクラー利用による病害虫防除 寺岡義一
- ウ. ミカンの貯蔵腐敗防止について 大森尚典

17. 昭和47年11月21日 善通寺市 四国農業試験場
18. 昭和48年11月21日 徳島市 徳島合同庁舎
19. 昭和49年11月15日 中村市 幡多文化センター
20. 昭和50年11月18日 松山市 えひめ共済会館
21. 昭和51年11月16日 高松市 香川県労働福祉会館
22. 昭和52年11月16日 丸亀市 丸亀市民会館
23. 昭和53年11月16日 徳島市 徳島県郷土文化会館
24. 昭和54年11月14日 高知市 高知第1ホテル
25. 昭和55年9月9～10日 松山市 郵便貯金会館

2. 会員と大会出席者の変遷

本会の成立時（昭和29年）の会員数は、第1表にみられるように県が15名、その他17であるが、四国農試から数名が入っているはずであるから総計は、32名+ α となる。当初の会員は、徳島県の松岡敏穂、佐々木成則、石井 博、小林 尚、以西信夫、香川県の福西安直、山西清平、小阪和彦、上原 等、林商一、愛媛県の河野嘉純、真木 胖、高知県の宮脇雪夫、小川正行、吉井孝雄、浜田有年の諸氏である。また翌30年には、さらに徳島県では藤田育資、香川県では大熊 衛、野田弘之、伊藤 博、葛西辰雄、愛媛県では大森尚典、森 介計、金井 隆、岡井勲平（故人）、安居新二郎、村上真一、松本益美、岡崎昭二（故人）、藤岡万平、高山昭夫、二宮文男、高知県では石本（佐竹）茂、池内辰雄、森沢 勇、松村 一、戸梶英雄、刈谷之夫、吉岡幸雄、四国農試では土山哲夫、永岡（滝川）昇、小山光男、藤田優、渡辺幸志、木谷清美、井上好之利、重松喜昭、久保千冬、夏目孝男、池上雍春の各氏が新入会された。別の資料によるとこの時の会長は嵐 嘉一氏、副会長は黒田春三氏であったようである。さらに、高知県の宮脇雪夫氏からの書状によると杉原勇三、山脇哲臣、西内美武、岡田忠清の諸氏を入会させてくれる様にと事務局に依頼されているので、これらの諸氏もこの当時入会されたものと思われる。

設立後から会員募集を行っているものの（参考資料3）昭和30年代は会員といってもそれ程固定的なものではなかったようで、年によってかなり変化がみられる。しかし、昭和39年の大会の案内には、39年10月までは協議会に出席するもののみが会費を収めてきたが、以後研究発表論文をのせる会報を発行し、会員に配布する予定であるから、本年からは会員を固定的に登録する予定であることが記録され、かつ幹事には会員を募集して記録するようにと記載されている。

以後、会員は固定し、また年とともに漸増する傾向をみせ、昭和40年代末には200名をわずかに2名割る盛況となり、50年代には常時200名を越え現在に至っている。

大会出席者も第2表にみられるように昭和30年代前半は50名に足りなかったが、後半からかなり増加し、40年代後半から100名を越え、25回大会では170名にも及んだ。

（資料－4）：会員数（会計簿から）

年 度	徳 島	香 川	愛 媛	高 知	四 国	その他	計
29年	5	4	2	4	?	17	32+ α
30	6	8	13	14	11	25	77
31	7	6	7	8	9	12	49
32	7	9	3	8	3	15	45
33	6	7	2	3	5	13	36
34	6	5	6	4	7	7	35

年 度	徳 島	香 川	愛 媛	高 知	四 国	その他	計
38年	5	5	7	6	?	18	41+ α
39	?	?	28	?	?	26	92
40	23	22	27	26	5	20	123
41	23	23	27	26	9	43	151
42	23	23	29	25	9	44	153
43	19	24	28	25	10	37	143
44	24	24	26	27	9	47	157
45	20	22	27	27	9	51	155
46	20	23	27	26	8	55	159
47	21	25	28	26	9	60	169
48	21	22	30	28	8	66	175
49	23	21	47	31	8	68	198
50	22	23	51	29	8	67	200
51	24	26	44	29	9	71	203
52	23	28	43	25	10	69	198
53	31	31	42	30	8	73	215
54	32	30	42	29	8	72	213

(資料-5) : 大会出席者数

大会数	開催月日	徳 島	香 川	愛 媛	高 知	四 国	その他	計
2.	30年9月12日	6	5	5	3	10	7	36
4.	32年3月14日	7	6	3	5	9	9	39
	33年12月17日	4	5	2	4	10	2	27
7.	35年12月16日	6	9	6	4	8	10	43
8.	38年11月21~22日	6	7	7	6	13	21	60
9.	39年10月25日	4	4	6	18	5	36	73
10.	40年11月16~17日	6	8	19	5	4	21	63
11.	41年11月24~25日	7	21	4	6	7	26	71
12.	42年11月9~10日	26	7	5	8	6	39	91
13.	43年11月15~16日	6	9	6	7	9	32	69
14.	44年11月19~20日	4	5	4	21	4	43	81
15.	45年11月19~20日	5	3	24	10	7	39	88
16.	46年11月17日	5	25	11	13	7	35	96
17.	47年11月21日	7	15	15	18	8	41	104
18.	48年11月21日	6	22	13	22	8	46	117
19.	49年11月15日							120
20.	50年11月18日	9	8	32	11	(8)	55	123
21.	51年11月16日	14	26	17	8	10	56	121
22.	52年11月16日	15	15	15	8	12	43	132
23.	53年11月16日	29	11	16	16	9	51	108
24.	54年11月14日	14	13	18	37	9	58	143
25.	55年9月9~10日	15	15	36	22	11	71	170

注：()内は推定数

(資料-6) : 会 員 募 集

本会設立の趣意及び規約を御覧の上。会の主旨に御賛同の方は成るべく多数御入会下さい。直接申込まれても結構ですが。委員の下で管内分をおとりまとめ下されば幸甚です。入会希望者は入会申込書に御記名の上御申込み下さい。尚同時に会費を御払込み願います。

会 費 一ケ年 一般会員 200円

特別会員 2,000円

印刷物の配布 会員には四国各県の病害虫に関する試験研究成績発生並防除関係資料等を印刷して配布します

申 込 先 善通寺市生野町四国農業試験場内 四国植物防疫研究協議会
(振替口座徳島 15508 番)

----- 切 取 線 -----

四国植物防疫研究協議会々々長殿

氏 名 勤務先 住 所

昭和 年 月 日

昭和 年度会費 円を振替(為替)にて送付します

此の度御会の主旨に賛同して入会します

四国植物防疫研究協議会入会申込書

3. 刊行物とその変遷

四国植物防疫研究会から発刊された定期刊行物としては、昭和30年9月10日から昭和34年3月10日まで「四国植防便り」が、以後若干の空白期間を経て昭和41年11月から現在まで「四国植物防疫研究」第1号～第15号がある。その他、各会議の際に不定期に色々な資料が刊行されたようである(資料-3参照のこと)。

そこで、定期刊行物として刊行された以上二種類について多少発刊のいきさつなどについてふれてみたい。

1) 四国植防便りの発刊

昭和30年1月27日、委員会を開催し、松木五楼、福西安直、松岡敏穂、藤岡万平、浜田有年、井上好之利の諸氏が出席し、上記刊行物創刊号の発刊について話合われ、年4回、活字印刷とすることが決まった。そこで、昭和30年8月11日付で嵐 嘉一会長が「四国植防便り」の原稿を依頼するむねの文書を各県に発送した。同年9月10日には、経費の関係からか、「ガリ刷り」の第1号が井上好之利氏の努力で発刊され、以後31年の3月まで毎月発刊されている。

昭和31年5月25日に木谷氏以下5名で編集会議を開き、再び5月、8月、11月、2月の季刊とすること、内容は発生予察、防除計画、農業試験場の試験方針と試験項目、試験結果の概要、防除の実際と問題点、新しい農薬、農具について等について掲載することが決められた。しかし、原稿の集まりが思うにまかせなかったためか、実際には、以後31年に1回、32年に3回、33年に4回刊行され、34年3月の16、17号合併号でもって終っている。この間、時とともに移りかわった問題点が、非常によくとらえられ興味深い。執筆された各県の方々をはじめ、直接事務を担当された井上好之利、夏目孝男氏の努力を多としたい。内容については一々ふれられないので、項目だけを以下に列記することにした。原本は四国農業試験場事務局と香川県農業試験場の葛西辰雄氏が保存されているので、ご利用願いたい。

その後、昭和38年11月21日の編集会議で復刊について話合われたが、防疫便りは定期的に発刊することを止め、部会の報告等を発刊することが決まり、翌22日の委員会で、不定期刊行物とし、トピック、連絡事項などを会員に知らせる。部会の開催を活発に行うことが決まっている。これ以後のトピック記事などについては残念ながら資料がなく知る由もない。

2) 四国植物防疫研究の発刊と研究発表

研究発表については、四国植物防疫研究の発刊以前にも行われていたが(資料-3参照のこと)、学会に準ずる発表形式をとったのは、昭和39年11月の高知市の農協会館で行われた第9回大会からである。すでに、この前年あたりから研究発表会を持つとする気運が会員の中に高まっていたようで、昭和38年11月21~22日に四国農業試験場で開催された第8回大会で、香川の小阪氏が代表して、研究発表会をもってはどうかと発言したとの記録が残っている。

(資料-7) : 「四国植防便り」の内容及び執筆者

1号 : P.1~8, 30年9月10日

本会の発足にことよせて

八月の病害虫発生状況

パラチオン剤による人畜の被害はどの位あったか

農薬(農機)会社便り

県有防除機具の整備状況

本年の試験から

嵐 嘉一

佐々木成則, 上原 等, 真木 胖

松岡敏穂, 福西安直, 藤岡万平, 浜田有年

庵原農薬株式会社

松岡敏穂, 福西安直, 藤岡万平, 浜田有年

井上好之利

2号 : P.1~8, 30年10月5日

稲作主要病害虫防除における農薬の使用形態の変遷について

九月のイモチ病とウンカ

ブロック会議から

農薬(農機)会社便り 初田式ダブルタンクについて

移動

福西安直

井上好之利

井上好之利

総会の報告, 規約の改正, 話題, 会員の

井上好之利

3号 : P.1~8, 30年11月10日

- 中国四国病虫害研究会の発足当時を顧みて 山西清平
 ブロック会議から 害虫部会の主な問題 土山哲夫
 十月の病虫害発生状況 井上好之利
 農薬（農機）会社の便り 日本特殊農薬製造KK
 沙録 1. 稲紋枯病発生に及ぼすParathion剤の影響（予報）日植病関西西部会要旨 道家剛三郎ら
 2. 稲熱病に対するアセトアマイド系殺菌剤の効果 長沢正雄
- 4号：P.1～8，30年12月10日
 本年の稲作病虫害の発生と防除を顧みて 香川県 福西安直 高知県 宮脇雪夫
 農薬（農機）会社便り 日本農薬株式会社の巻
 28～29年の農薬使用量，梨黒斑病，桃黒星病に対するクロンの効果など
 じゃがいも蛾愛媛県に侵入 愛媛県 河野嘉純
 後記
- 5号：P.1～6，31年1月10日
 昭和30年度の稲作病虫害と防除を顧みて 河野嘉純
 孟宗竹を加害する新害虫の発生について 松岡敏穂
- 6号：P.1～6，31年2月10日
 本年度本県の稲作病虫害の発生と防除の概要について 松岡敏穂
 一月の病虫害発生概況 井上好之利
 農薬（農機）会社の便り 北興化学工業KK
 試験成績から……蕃茄に寄生する蚜虫と萎縮病 井上好之利
 話題 井上好之利
- 7号：P.1～8，31年3月28日
 昭和30年度の害虫関係試験研究の成果 土山哲夫
 稲紋枯病に関する共同研究の成果 井上好之利
 総会報告 稲作病虫の被害並びに薬害について協議の概要 井上好之利
 昭和30年度収支決算報告，昭和31年役員
- 8号：P.1～30，31年7月17日
 昭和31年度水稲主要病虫害防除計画 福西安直，藤岡万平，宮脇雪夫，太田一男
 水稲病虫害発生予想（各県）
 農薬（農機）会社の便り 三共株式会社
 本年度試験研究の方向と計画の概要
 上原 等，真木 胖，小川正行，佐々木成則，木谷清美，土山哲夫
- 9号：P.1～21，32年3月5日
 昭和31年度に於ける西南暖地水田生産力増強に関する害虫関係試験研究の成果 土山哲夫
 昭和31年度秋冬作に関する四国ブロック会議部会報告 病虫害の部 木谷清美，土山哲夫
 昭和31年度に於ける西南暖地水田生産力増強に関する病虫害関係試験 上原 等
 農薬（農機）会社の便り 大阪化成KK
 愛媛県の昭和32年稲作病害防除計画樹立要領 河野嘉純
 昭和32年度水稲病虫害防除計画 宮脇雪夫
 すず
- 10号：P.1～10，32年4月15日
 昭和32年度香川県水稲主要病虫害防除計画 福西安直

- 昭和32年度徳島県水稲病害虫防除計画 太田一男
 昭和31年度総会報告 会の運営に関する協議, 植物防疫に関する研究協議 夏目孝男
 鈴の音
- 11号 : P. 1~13, 32年11月 1日
 ジャガイモ蛾に関する研究協議会開催される(検討内容)
 昭和31年度四国ブロック春夏作試験成績打合せ会議 病害部会報告, 害虫部会報告
 愛媛だより 河野嘉純
 鈴の音
- 12号 : P. 1~46, 33年 3月13日
 昭和32年度西南地方等水田生産力増強に関する試験 病害部会要旨
 昭和32年度四国四県病害虫防除成績
 トピック ウンカ越冬の謎がとけた ツマグロヨコバイに2種類
 鈴の音
- 13号 : P. 1~12, 33年 5月 5日
 昭和32年度総会報告(出席者, 予算, 協議内容等)
 昭和32年度病害防除試験の概要 浅賀宏一
 昭和32年度ブロック会議における害虫部会のあらまし 武田元吉
 昭和33年度試験設計(連絡試験など)
 鈴の音 後記
- 14号 : P. 1~13, 33年 6月30日
 じゃがいもが防除協議会てんまつ記 福西安直
 昭和33年冬作試験成績の概要
 昭和33年度委託薬剤一覧表(病虫関係)
- 15号 : P. 1~11, 33年10月10日
 四国各県の土壌線虫の発生状況について(1)
 じゃがいもが発生状況
 病虫害今夏の話
 1. 糞枯細菌病について 2. 不時青枯病 3. パラチオンについて 重松喜昭
 鈴の音 後記
- 16, 17合併号 : P.1~8, 34年 3月10日
 昭和33年に於ける農業薬剤の効果に関する研究協議会
 (I) 四国各県に於ける本年度稲作病害虫の発生状況, 特にその特異性に関する検討
 (II) 防除及びそれに関連した問題点の検討
 (1) ニカメイチュウの1化期に於ける有機リン剤の防除効果について
 (2) モンゼットの薬害について
 (3) 縞葉枯病の防除対策について
 (4) 高知県における一斉共同防除に関する事項
 (III) 四国における昭和33年度病害虫発生状況及び防除状況
 (IV) 昭和34年度病害虫防除計画
 鈴の音(以上鈴の音は主として人事消息を中心とした記事)
 昭和39年10月20日付松林会長の四国植物防疫研究協議会の開催通知には, 本年から研究発表を行い,
 その論文を掲載する会報を発刊し, 会員に配布する予定であるむね明記されている。また, 投稿者のた

めに、当初は四国植物防疫投稿規約（案）と執筆要領の二部が考えられていたようであるが、昭和39年11月高知の農協会館で開催された総会では両者を繰合した投稿規定が審議されたようである。なお、当初考えられ残っている規約（案）は次のようなものであった。

四国植物防疫研究投稿規約（案）

1. 投稿者は会員に限る。但し会員以外の投稿については編集幹事において決定する。
2. 原稿は未発表のものとし、植物防疫に関係のあるものとする。
3. 論文は原則として防疫協議会講演会において発表したものとする。但し余有のある場合は会員より募集することがある。
4. 原稿の長さは刷り4頁（1頁2304字）以内とする。これを越える場合は実費を支払うものとする。但し、特別に依頼した特別原稿（連絡試験のとりまとめ）等に類するもので編集幹事において適当と認めたものは制限しない。
5. 別刷は50部を贈呈する。
6. 原稿の執筆は別に定める執筆要領による。

昭和41年総会の記録によると、同年中に第2号を刊行する予定であること、会員から200円を徴収し、引きかえに1号を渡すことが承認された。しかし、実際には翌年2月に2号が発刊された。

総会で決定した投稿規定については、昭和42年1月20日付で、第2号に投稿される人のため、とりあえず各県委員にあてて発送し、正式には第2号に印刷された。その後の規約改正、投稿規定の改正については、その都度四国植物防疫研究に掲載されているので省略した。

つぎに、研究発表題目については昭和39年から昭和46年まで記録されていないので、参考までに以下に収録した。

（資料－8）：研究発表題目一覧（昭和39年～昭和46年）

39年11月25～26日（高知市）

1. ウンカヨコバイ類の生息密度方法について 永井洋三（徳島農試）
2. 水稲穂枯症の発生状況について 佐々木成則・柏木弥太郎（徳島農試）
3. 圃場におけるヒメトビウンカ各世代のイネ縞葉枯病ウィルス保毒虫率の動き 上原 等・佐藤芳久（香川農試）
4. イネ縞葉枯病の防除に関する研究
② 後期感染の被害実態について 重松喜昭・吉岡幸次郎（愛媛農試）
5. 暖地抑制トマトの瘡痂病防除について 河野 弘・重松喜昭・松本益美（愛媛農試）
6. 稲心枯線虫病の発生生態と被害に関する研究
① 発生の地域性について 重松喜昭・清家義明・上田 進（愛媛農試）
7. 礫耕キュウリの疫病菌汚染礫に対するホルマリン消毒とその洗滌方法について 山本 馨・斉藤 正（高知農試）
8. 二期作栽培地帯におけるツマグロヨコバイの発生とそれによる稲ウィルス病の発病について 井上 孝（高知農試）
9. ミカンのコナジラミの成虫の発生について 川村 満（高知農試）
10. ヒメトビウンカの保毒検定における2・3の問題 小山光男（四国農試）
11. イネ紋枯病防除に対するキタジンの効果について 木谷清美・夏目孝男（四国農試）
12. 水稲穂いもち病および穂枯性病害の同時防除に対するブラエス主剤の配合について 木谷清美・夏目孝男・浅賀宏一・木曾 皓・国安克人（四国農試）

13. 稲縞葉枯病に対するドル・ダイシストン粒剤およびキルパールの効果について(連絡試験総活報告) 木谷清美(四国農試)

40年11月16～17日(松山市)

1. 徳島県におけるツマグロヨコバイのアタマアブ寄生率について 以西信夫・日和田太郎(徳島農試)
2. 有機磷剤に抵抗性ツマグロヨコバイの棲息率の場所による違い 亀山政幸(香川農試)
3. ヒメトビウンカに対する各種殺虫剤の接触毒性 葛西辰雄(香川農試)
4. 香料作物ゼラニウムの細菌性芽枯病(仮称)に関する研究(予報)薬剤散布の効果について 松本益美・上田 進・是沢義明・谷田正夫(愛媛農試)
5. 二期作地帯における稲白葉枯病菌フェージの消長 齊藤 正・西内美武(高知農試)
6. 高知県における稲白葉枯病菌型の分布(予報) 西内美武・齊藤 正(高知農試)

41年11月24～25日(香川農試)

1. 明日山式孢子探集器と回転式孢子探集器による*Piricularia* sp.など2,3の菌類についての孢子採集状況 上田 進・松本益美(愛媛農試)
2. ニカメイチュウに対するパダン水溶剤・粉剤の効果 尾崎幸三郎・葛西辰雄(香川農試)
3. イネ白葉枯病の防除時期について 西内美武ほか(高知農試)
4. トマトモザイク病の防除に関する研究
① トマトの栽培型とVirusの種類について 重松喜昭・河野 弘・別宮岩義(愛媛農試)
5. 昆虫の個体群経過と親の年令効果 桐谷圭治(高知農試)
6. イネ穂枯れに関する研究 第1報罹病部位からの分離菌
7. カメムシの自然条件下における有効産卵数の推定法 法橋信彦・桐谷圭治(高知農試)
8. スイカ炭そ病, つる枯病に対する各種防除薬剤の効果

42年11月9日～10日(徳島農試)

1. 有機りん剤抵抗性ヒメトビウンカの香川県における分布について 横山光夫・亀山政幸・葛西辰雄・尾崎幸三郎(香川農試)
2. イネ白葉枯病の発生予察と防除に関する研究
(第3報)県内の主要水系におけるイネ白葉枯病菌フェージの周年消長について 河野 弘・上田 進・松本益美・真木 胖(愛媛農試)
3. ツマグロヨコバイのイネに与える被害 野村性孝・中筋房夫(高知農林技術研究所)
4. キュウリ緑斑モザイク病の発生,被害と温度との関係 山本 勉(徳島農試)
5. ヘリコプターによる農薬の微量散布(ウンカ,ヨコバイ類に対するTCI-65原体溶液の効果) 清家安長・高山昭夫・河野 弘・上田 進(愛媛農試)
6. みかんそうか病の防除時期 宮脇雪夫・西村千弘・森田寅一(高知県庁)
7. 電灯照明による果実吸虫蛾の防除効果に関する考察 松沢 寛・豊村敬輔・小浜礼孝(香川大学農学部・徳島県板野高・徳島勝浦園芸高)
8. ハッサク萎縮病の症状と被害実態 大和浩国・宮川経邦(徳島県試)
9. 個体群の単位 笹波隆文・桐谷圭治(高知農林技術研究所)
10. イネ心枯線虫病の薬剤による省力防除法について 上原 等・崎崎芳久(香川農試)
11. トマトモザイク病の防除に関する研究
(第2報)露地栽培トマトモザイク病の防除について 重松喜昭(愛媛農試)
12. 山岳部におけるセジロウンカ, トビロウンカの生息状況について 山下定利(徳島農試)
13. イネ縞葉枯病に関する研究(VII)

- 殺虫剤による防除効果について 木谷清美・木曾 皓・山本孝彜（四国農試）
14. 薬剤の濃度および処理時間と効果についての統計生理学的考察 河野達郎（四国農試）
- 43年11月15～16日（四国農試）
1. 2,3の蔬菜害虫に対するランネートの効果について 以西信夫（徳島農試）
 2. 温州ミカンの訪花害虫の防除について 寺岡義一・浜岡重夫（香川農試）
 3. ツマグロヨコバイの殺虫試験法 笹波隆文（高知農林技研）
 4. ショウガ立枯病に対する（土壌）殺菌剤の効果 西内美武・高木俊輔・齊藤 正（高知農林技研）
 5. 穂枯れに対する薬剤類の効果の検討 木谷清美・大畑貫一・久保千冬（四国農試）
 6. 水稲ならびにレンコンを加害するイネネクイハムシの防除について
以西信夫・柏木弥太郎・谷 幸泰（徳島農試）
 7. ヒメトビウンカにおけるマラソンまたはスミチオン抵抗性の発達について
大熊 衛・尾崎幸三郎（香川農試）
 8. 水田害虫のサンプリングに関する研究（第2報）。
りん剤抵抗性ヒメトビウンカのエストラゼ反応調査におけるサンプリング法
清家安長・高山昭夫・吉岡幸治郎（愛媛農試）
 9. イネ縞葉枯病に対するキルバールおよびダイシストン粒剤とその併用の効果
木谷清美・山本孝彜・木曾 皓（四国農試）
 10. 欧米奥の細道 浅田泰次（愛媛大）
- 44年11月19～20日（高知市）
1. イネツトムシの発生と薬剤防除 須藤真平・日和田太郎・永井洋三（徳島農試）
 2. 昭和44年度における水稲病虫害防除改善圃場の総括
一燐および塩素系殺虫剤による害虫防除とその問題点
井上 孝（高知県農林技術課）・桐谷圭治（高知農林技研）
 3. イネ縞葉枯病の発生予察に関する研究 第1報コムギ上のヒメトビウンカ第1世代幼虫の生息数と
イネの発病との関係 上原 等・都崎芳久（香川農試）
 4. ハウス果菜の2,3の地上部病害に対する土壌施薬の効果 齊藤 正・山本 磐（高知農林技研）
 5. ツマグロヨコバイとヒメトビウンカに対する薬剤の接触毒性と圃場における効果との関係
尾崎幸三郎・葛西辰雄（香川農試）
 6. 粒剤の食物連鎖を通じての捕食性天敵への影響 川原幸夫（高知農林技研）
 7. トマトのモザイク病の防除に関する研究 第4報カンレイシヤの質とCMVの防除効果
木谷清美・重松喜昭（愛媛農試）
 8. 愛媛県松山市余戸に発生したキュウリのウィルス病について
木谷清美・木曾 皓（四国農試）・重松喜昭（愛媛農試）
 9. キタジンP粒剤の水面施用について 齊藤三雄（クミアイ化学）
- 45年11月19～20日（松山市）
1. キュウリ緑斑モザイクウィルスによるスイカモザイク病の伝染に関する2,3の研究
上原 等・都崎芳久（香川農試）
 2. スイカ体中におけるキュウリ緑斑モザイクウィルス（スイカ係）の探索
木谷清美・木曾 皓（四国農試）
 3. ウリ類疫病の被害の実態 福西 務・山本 勉・須藤真平（徳島農試）
 4. ビーマンうどんこ病菌分生胞子の発芽に関する2,3の研究 倉田宗良・齊藤 正（高知農林技研）
 5. ハスモンヨトウのふ化幼虫集団に対するクモの影響 山中久明（高知農林技研）

6. ミカンハダニ防除時期についての一考察 森 介計・武智文彦(愛媛果試)
7. イネアカアブラムシの翅型決定機構 松崎征美(高知農林技研)
8. スミチオン散布直後の降雨がニカメイチュウの防除効果に及ぼす影響 野口義弘(徳島農試)
9. 樹冠表面散布による柑きつ病害の防除効果 大森尚典・松本英紀(愛媛果試)
10. 香料ゼラニウムのてんぐ巢病に関する研究 重松喜昭・吉岡幸治郎・橋田信行(愛媛農試)
11. イネ稚苗期における紋枯病の発生推移と薬剤の防除効果 齊藤 正・古谷真二(高知農林技研)
12. 粒剤によるイネ病害虫の省力防除体系に関する研究 重松喜昭・吉岡幸治郎(愛媛農試)

46年11月17日(香川農試府中分場)

1. イネの穂揃期におけるツマグロヨコバイの被害 葛西辰雄・尾崎幸三郎(香川農試)
2. 農薬無散布水田におけるクモ種類相の年変動 川原幸夫・桐谷圭治(高知農林技研)
3. 調査用光源と予察燈 永井洋三(徳島農試)
4. キュウリ小斑細菌病様症状と防除について 上田 進(愛媛県東予防除所)
5. ビーマンうどんこ病菌の胞子形成について 倉田宗良・齊藤 正(高知農林技研)
6. ハスモンヨトウの生在率調査について 松本益美・吉岡幸治郎(愛媛農試)
7. クロロフェナミジン剤の低濃度散布によるハスモンヨトウふ化幼虫集団の分散効果 山中久明(高知農林技研)

8. ハスモンヨトウの交尾時間、回数とフェロモントラップへの飛来について 小山光男(四国農試)

なお、四国植物防疫研究の各号の印刷はつぎのようである。1号：昭和(以下省略)41年11月，2号：42年4月，3号：43年3月，4号：44年9月，5号：45年7月，6号：46年6月，7号：47年6月，8号：48年6月，9号：49年6月，10号：50年6月，11号：51年6月，12号：52年6月，13号：53年7月，14号：54年7月。現在，1号は欠となっているが2号以下は在庫があり，発売しているので，希望者は求められたい。

本研究誌は，第3号からは学術刊行物として発送時の特典も与えられた。すなわち，昭和42年1月木曾 皓氏から農事試験場石井正義あて，学術刊行物を内容とする郵便物差出し手続きなどに対する問合せがあり，それによって，学術刊行物指定申請を行い，同年4月18日に郵政省に発送したところ，5月2日郵業第163号をもって同省郵務局業務課より学術刊行物指定申請書を4月21日受理したむね通知があった。さらに，昭和53年4月には国際標準逐次刊行物として登録申請を行ったところ，同年4月26日付で逐次刊行物のISSN(国際標準逐次刊行物番号)0386-0515が認められ，各実共に国際誌としての承認を受けた。

この間，海外からの要望も強く，ケミカル・アブストラクト・サービス，中国科学技術情報研究所文獻館(中国農業科学と交換)，国立大英図書館の科学参考図書館，英国の日本関係の科学技術図書館(Library of Japanese Science and Technology)などと図書の交換乃至寄贈している。なお，国際標準逐次刊行物承認と同時に国立国会図書館からの要望もあり，キータイトルをShikoku shokubutsu bōeki Kenkyūとした。

4 本会の役員および会のお世話をしていたいただいた人々

本会の役員についての記録は，残存するものが少ないが，記録に残ったものを列記するとつぎのとおりである。資料-9は，県関係の方々，資料-10は総会議長，協議の座長などを担当して下さった方々である。また，資料-11には事務局を担当した方々である。資料-9では，その出所を備考に示した。資料-10では昭和41年研究発表が行われる以前のことは明らかでないが，当時出席された方々の話では，四国農試の主任や担当県の方々が適宜担当されたようだとのことであった。資料-11の事務局では，昭和42年まで常任幹事が1人で会の雑務を担当したが，昭和42年9月9日の役員会で幹事を2名とし，会計及び庶務と

を区別し、会計監事を会計監査と改名した。昭和41年の役員以降は四国植物防疫研究の各号に記載されているので参照されたい。

なお、断片的な記録であるが、本会の会長は歴代の四国農試場長が、また副会長は40年以上前項までは四国農試病害、虫害病研究室長が歴任されたようであり、その後は1名を四国農試が、他の1名を次期開催県が担当される慣わしとなったようである。

本会が現在の隆盛をみるに至った裏には、当時から今日に至るまで、会員1人1人のご協力と、以上にあげた様な多くのご援助があったことを銘記し、心から感謝申上げると共に、他に書きもらした多くの方々にもおわび申上げたい。

(資料-9) : 県関係の方々

年 度	徳 島	香 川	愛 媛	高 知	備 考
30年1月	松岡敏穂	福西安直	藤岡万平	浜田有年	記録
30年10月		入交正豊 ¹⁾	高橋道太郎 ¹⁾	田村貞治 ¹⁾	植防便り2号
31年2月	原 敏 ¹⁾				同上6号
31年	松岡敏穂	上原 等	河野嘉純	浜田有平	記録
	佐々木成則	山西清平	藤岡万平	宮脇雪夫	
	本田信啓 (会計幹事)	福西安直 (会計幹事)			
32年				山本場長 ¹⁾	植防便り10号
35年	佐々木成則	上原 等	河野嘉純	吉井孝雄	記録
	増田政子	福西安直	真木 胖	高田隆男	
38年11月 ²⁾	佐々木成則	上原 等	藤岡万平	山崎俊郎	記録
	橋本 久	木谷安雄	重松喜昭	齐藤 正	
		福西安直 (会計幹事)	大森尚典	吉井孝雄 (会計幹事)	

注：1)は顧問で各農試場長、2)同年には13名の顧問が就任されたが、その後の動静は記録になく、明らかでない(顧問には各農試場長、改良課長、四国農試部長)

(資料-10) : 大会でお世話になったの方々

年次	総 会 議 長	協 議 座 長	研 究 発 表 座 長
41年	木谷安雄		木谷清美 河野達郎
43年	木谷安雄	木谷清美 河野達郎	松沢寛 尾崎幸三郎 宮脇雪夫 桐谷圭治 上原 等
44年	高田隆男	宮脇雪夫 高田隆男	高山昭夫 山本 勉 河野達郎 上原 等
46年	木谷安雄	大森尚典 上原 等 桐谷圭治	松沢 寛 山本 勉 高山昭夫

47年	上原 等	大竹昭郎 斉藤 正	桐谷圭治 上原 等
48年	山本 勉	山本 勉 井上 昭 釜野静也 重松喜昭 尾崎幸三郎	松沢 寛 松崎 征美 永井洋三 松本 益美 上原 等 松本 益美 釜野静也
49年	宮脇雪夫	永井洋三 重松喜昭	岡本秀俊 山本孝 狛男 野口義弘 小山光 吉岡幸治郎
50年	三好太郎	山本 勉 小阪和彦	斉藤 正 永井洋三 松崎 征美 尾崎幸三郎
51年	尾崎幸三郎	斉藤 正 高山昭夫	重松喜昭 永井洋三 山本 勉 森 介 計
52年	小山光男	山本 勉 尾崎幸三郎	野口義弘 野田弘之 吉岡幸治郎 桐谷圭治
53年	宮川経邦	吉岡幸治郎 森 介 計	福西 務 小山光男 野口義弘 斉藤 正
54年	山本公昭	都崎芳久 重松喜昭	石井正義 寺岡義一 寺岡義一 福西 務 野口義弘 吉岡幸治郎
55年	高山昭夫	野口義弘 西内美武 福西 務 尾崎幸三郎	都崎芳久 松崎 征美 山本 磐

(資料-11) : 事務局を担当した方々

会 長	事 務 局	
	病害, 虫害の世話保 ¹⁾	常任幹事 ²⁾
松木五楼(~30.3)	木谷清美(21.12~46.9)	井上好之利(29~31)
嵐 嘉一(30.4~35.11)	土山哲夫(28.12~34.2)	夏目孝男(32-33)
瀬古秀生(35.11~37.1)	高木信一(34.4~38.6)	小山光男(34)
永野義治(37.1~39.1)	河野達郎(38.7~46.2)	岸本良一(37)
松林 実(39.1~43.1)		夏目孝男(38~40)
安孫子孝一(43.1~45.8)		大畑 貫一(41)
仁木巖雄(45.8~47.9)		木曾 皓(42)
児玉敏夫(47.9~48.9)		大竹昭郎(庶務 43)
坪井八十二(48.9~50.6)		木曾 皓(会計 43)
森谷睦夫(50.6~53.3)		
出井嘉光(53.4~54.11)		
姫野健太郎(54.12~)		

注：年は昭和, ¹⁾ は在職年, ²⁾ は担当した年, 昭和46年以降は四国植物防疫研究参照のこと

(石井正義)